

谷議員、坪井議員が聞く

東広島の 障害者雇用

表紙写真／話をお聞きした皆さん

今回は、「東広島の障害者雇用」をテーマに、障害者の就労支援に取り組んでおられる事業者の方と、障害のあるお子様をお持ちの保護者の方から、障害者の雇用を取り巻く課題と現状についてインタビューしました。

プロフィール



社会福祉法人しらとり会
ワークセンターなかよし
管理者 かきお やすひろ 垣尾 泰弘さん



社会福祉法人つつじ
広島中央障害者就業・生活支援センター
就業支援ワーカー たなか みおる 田中 稔さん



まさお やすよし 垣尾 泰由さん

※ 就労継続支援B型…障害者総合支援法に基づく就労継続支援のための施設。現時点で企業などで働くことが困難である方に対し、働く場所を提供している。雇用契約を結ばず、作業分のお金を工賃として受け取るため、比較的自由に働くことができる。

その方の人生を考えていくと、 継続的なサポート体制の整備が必要

Q 自己紹介をお願いします。

垣尾 ※就労継続支援B型の事業所と、生活訓練もさせていただいています。またそれと併設して地域生活支援センターまほろばで地域活動支援センターのI型の事業、相談支援をさせて

いただいています。

田中 求職中あるいは在職中の障害のある方などで悩みを抱える方に応じて、雇用及び福祉の関係機関と連携し、就業面と生活面の一体的な支援を行っています。

笹尾 娘が広汎性発達障害です。

今現在、自営で室内クロスの張り替えや壁の塗装などをやっております。

Q 不安に思われている現状についてお聞かせください。

垣尾 生活していくために沢山の工賃をお支払いできればいいのですが、下請けの仕事を中心に活動をさせていただいていますので、いろいろ工夫はするんですけど、簡単には工賃を上げることができないのが現状です。

田中 求人ほとんどが短時間のパートの募集ですので、ほとんどが最低賃金になっています。6時間程度の仕事ではとても生活ができません。自立が厳しくなっているというのが現状です。



笹尾 中学校までは義務教育なので行き場があるんですけど、うちの子供は軽度障害者ですが、そういう子供を受け入れる高校がないことが一番不安なところ
です。

Q 今後の課題や要望をお聞かせください。

垣尾 就職までは漕ぎつけたけど、それで終わりとはいかないですよ。その方の人生を考えていくと、いかに仕事を続けていくかということが大事で、継続的なサポート体制を整備する必要があります。

田中 企業の雇用意識と実務現場での意識に大きなギャップがあります。会社は雇用したいんですが、実際一緒に働くのは現場の方ですので、現場との調整が必要になってきます。

笹尾 職業能力開発校みたいなものと高校を併せたような、子供の就職へ向けての後押しをしてやれるような学校を東広島に作っていただきたい。そうすることによって、いろんな勉強を

して技術を身に付けた段階で就職できるなら、雇用の仕方も大分違ってくるんじゃないかと思
います。

Q 最後に一言。

田中 事務職を希望される方がだんだん増えています。求人はないんです。他の職種もそうですが、特に事務職の求人が公
共団体から出てくればいいなと思
います。

垣尾 知的障害・精神障害の方について、ようやく他県で公務員の採用をするところが出てきましたけど、広島県はまだそこ
までいってない。今後ご検討い
ただけたらと思います。

笹尾 一般企業では利益確保も大事ですから、難しい面もあると思
うんです。やっぱりまず市から仕事を出す、仕事をつくる。そしてそれに見合う賃金を支
払う。そういう雇用システムが
できたら一番理想的だなと思
います。